

ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> L.	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)		ミクリ科
選定理由	生育地が局限されていて、絶滅が強く危惧される。	写真(清水英彦) 
形態の特徴	茎は高さ50-150cm。地下茎が横走して先端に新しい株をつくる。葉は2列互生し、線形、下面に稜が発達して断面が三角形になり、長さ5-150cm、幅8-18mm。茎の先と上部の葉の脇から出る枝のそれぞれの下部に雌性頭花、上部に雄性頭花ができる。雌花の柱頭はミクリ属の他種より長く3-6mmになる。	
生態的特徴	湖沼、河川、水路などに生育する多年草。花期は6-9月。	
分布状況	北半球とオーストラリアに分布し、日本では北海道から九州に分布する。岐阜県では県南の中南部に見られる。	
減少要因	湖沼の埋め立て、河川の改修に伴う生育環境の破壊、水質の悪化。	
保全対策	生育地の保全と水質の改善。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘